

一般廃棄物炭化燃料化技術の概要

- 1) 搬入されたごみは、炭化炉に供給される前段階において十分に攪拌、破碎され均質化されます。
- 2) 給じん機にて炭化炉に供給されたごみは、炭化炉内でほぼ無酸素の状態ですら約1時間かけて炭化されます。炭化温度は約450°Cで、炭化炉には間接外熱キルン式^{*}を採用しています。

^{*}二重の筒により構成される回転式の炉。内筒の中にごみ、内筒と外筒の間に高温の熱風が通る構造となっており、ごみは間接的に熱を受けることになります。
- 3) 炭化炉から排出された炭化物は、石炭混焼燃料として利用するため脱塩装置で温水洗浄等の手法で塩素濃度を低減するとともに異物除去を行います。その後、脱水・造粒されてペレット状の燃料として搬出されます。
- 4) 異物のうち鉄とアルミは資源化物として回収するようになっています。
- 5) 炭化炉で発生した熱分解ガスは、燃焼炉以降の排ガス処理システムにて環境基準値を満足するよう適切に処理されます。熱分解ガスのエネルギーの一部は炭化や脱塩等に必要なた熱源として有効利用されます。

